

棟源氏草子

中頃の事にもありけん伊勢の國ありしが浦に。いはしつり一人あり。もろはえびおの六郎左衛門なり。關東をふるひにてをありける。妻にもゝねて。娘を一人もちたりしを。日頃めしつひひける。あるげん一からふのこころをいふ。ちかたははしつりのおもへんをゆしり。わが身は都へのより。もろあひ切り。えびおのおもみだらしつり。かくれなき適世者にてをありける。大名高家ちかづけ給へり。あるはつりに婿のあるげんと。いりり。都へ上りて。ちかく中を。伊勢の國にありしが浦のあるげん一が。いりり。いりり。あきあひければ。人々これを聞き。おもしうきりわしりりかあつり。人々あひくる間。あるげん一程あつりつりへの身なりしつり。あるげん一。いりり。いりり。五條の橋をわたししが。折ふこころのつりにもあひし。川風はけまゝ。またすなれを。はつら吹まのびたる。其際より。つこの内の上臈を一めみし。

の浦にぞ。みぢあし人のもへくしらせたまひ候へど。祈請を申しければ。かたじけなくも。ハ幡まきくらがみにたち給ひ。汝がよふる女は。鳥羽の尾御前といふもの娘に。天女にて。渡邊の左衛門が妻女ありしを。なごし給ひて。夢は醒めぬ。それよりも。鳥羽の尾御前の家の門のぼろりに。ひねふしてぬたりければ。尾御前御らんて。こははらひしより。いかふる人にて。おにもあわらはが門にうちふし給ふを。なづね給へば。盛遠くるしげふるいさをいさ。その御事にては。はしむしき申。このまに候へば。その^{冥途}の障をもふるべければ。申し上げ候。すまじし頃。難波の橋の供養のありし時。御身のひめ。てん女御せんを。一めみ参らせしより。御おもひげりすれがたきて。かろくにありもき候。せめて此門のぼろりにたすみふは。もし天女御前をも。見奉る。そのまやご語りし。我もふこくあり候は。てんよの君に。かろく傳へたまひ候へたりければ。尾御前のまよしを聞き給ひて。はるもめがまじや。我子に人のたまひをわけしすれば。貞女の法に背く。又は

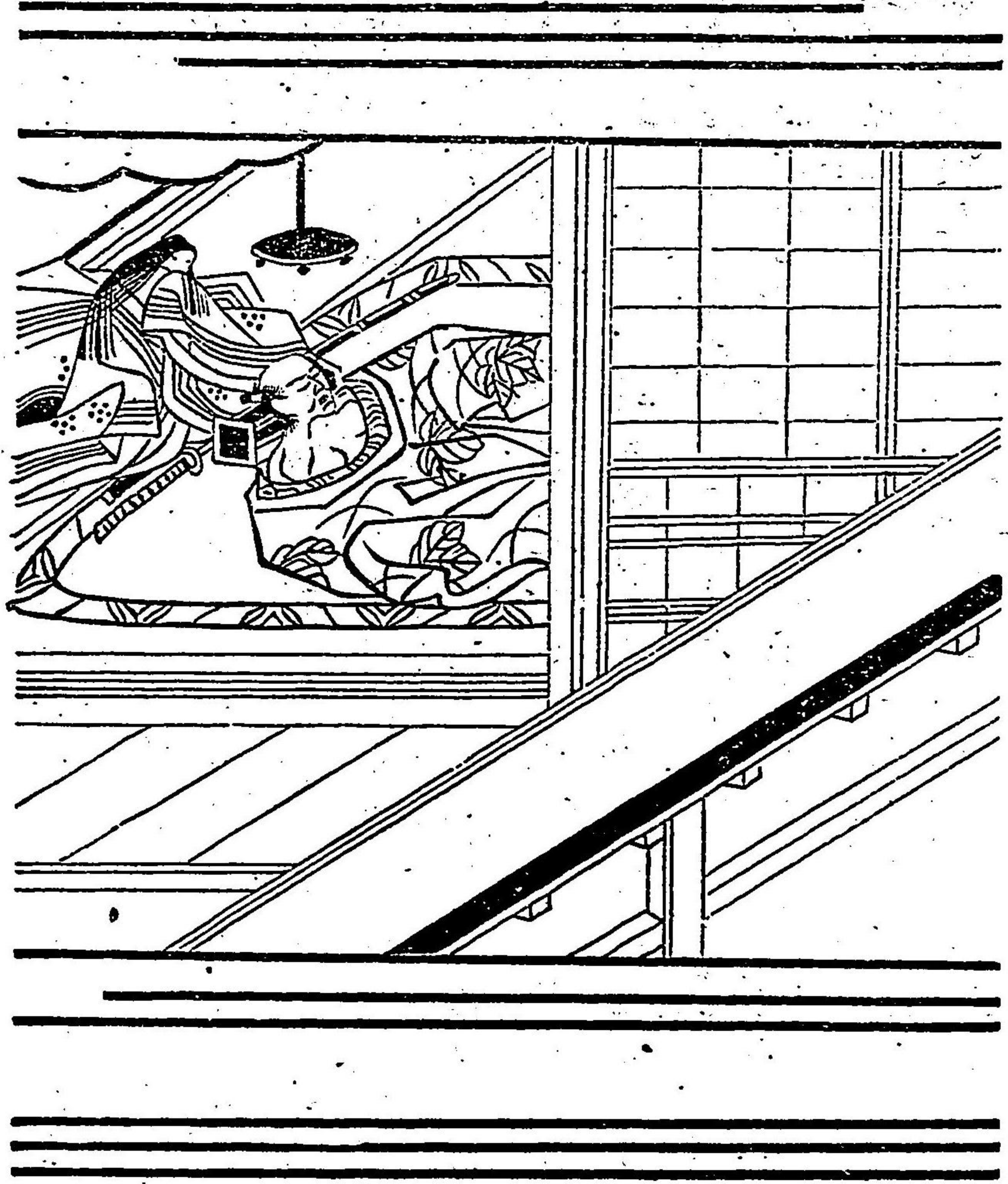
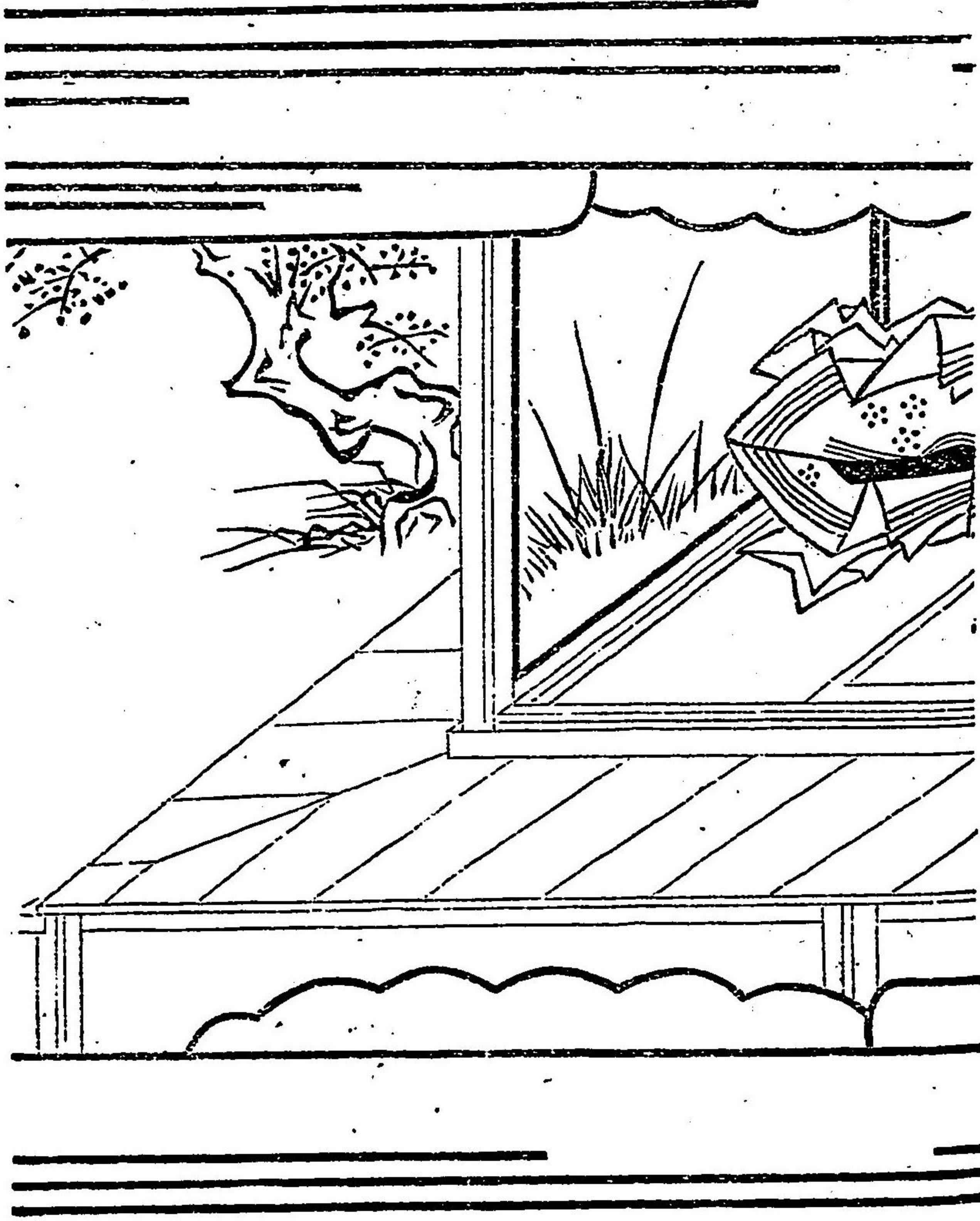
おぼがき怨を歸すし。いかせんおもひ煩ひ給ひしが。いやくもの命をたつ事は。このに佛のいさしめ給ふあり。死に二たびかへらぬ。冥途黄泉の路ぞかし。人をたすくるは。菩薩の^行まじりおぼし。後に尾御前かせのよちのよちつげまらせ給へば。てん女御せんは。ふるものまじりあす。このなはちめて來り給へば。尾御前は。いさぎ盛遠を。ひんがんに。このなはちめ入ねおきて。てん女御前をおごり所くらしめられ給ふ。盛遠おめのつばこ。はるもめこの事しあや。このまに語りしければ。てんよは此よこち。このまに。このまに可もあはほの。露のまきはやんおぼしけるが。又引きかへしおもむく。まてまはこわが。母のおぼせに從へば。貞女の法をむく。母のまをむくは。不孝のつたらしめあす。このへらしはらば。このたほこ。このに盛遠殿を。このまに。けにみじから。御心をよせ給は。みづからがしまの左衛門を。このまに。御身の二世まの契を。このまに。たご今かりの枕を。このまに。後のおもひもの。このまに。左衛門をおさむら。御身に

所へもきよ。いかに左衛門どの。いなきつめて聞き給へ。天女御前をば。それびしが
 手におけ。殺し申し候。その仔細は。すぎにし頃。難波の橋の供養の時。天女御す
 びたを一めみこより。ひんふり。ある時ふしぎのたまりに。われくが申すやう。夢は
 かり枕をふるふてたび給へ。おもひ事あらば。御身故何じ命のをしひるべき。夢にて
 ちみこくふら入るいひければ。天女のたまふは。御身に靡き候へば。真女の法をそむ
 く。又いふ事申せば。人の怨をさるるいひ。すまにはや御身むあしくふら入るのたまふ
 ば。思ひわけたるむたまふし。所詮たは。おもふ事あり。たゞ今夫つまをもちふら。御身に
 ぶびん。事あらじ。おもひゆるる事あらば。つみの左衛門をうるし給は
 ぶ。其後は。ちみこくふら入る事し。おもひ。御身をうしひ得て。ちや
 うにたは。ちみこくふら入る。口をこふら。いひふら。わがくひをうたせ給ひて。天女の
 けつ。つにもき給ひて。御身のむねの。ほのほなまら。し給へらひひ。へびをかうの。い
 ちければ。左衛門あまりの無念を。すまは。うたんときたりしが。中にて心なきかへ

し。いかに盛遠殿。御身をうたれば。天女がむらるべきにあらす。其つなきを
 にかうりし女おれば。わが菩提を帝は。たれのは跡を帝ふべき。たすけ參らすやう。
 そのたまひなふして。おもひなき。墨染の身をまつし。天女御前を帝ひけり。盛遠
 もやうと。いひまひなき。天女のぼなひを。おら。かまは。いひ
 る。盛遠は十九。左衛門は廿にて。もなき名を。盛遠は文覺をいひて。か
 くれおき智識を。い給へ。一め見こひの。もあふ。申しければ。おもひ
 此よし聞き給ひ。汝は。たれあの人。いひしを。ちやう。うらな。いひ
 申し給へ。それは。いみこ。そのあり所を。うら。の戀あり。汝が
 ひは。たれ。其すみ。五條の橋に。ちみこ。ちみこ。おもひが
 て。みすの。見たり。入を。いひ。ちみこ。いひする物。あ
 ちの。いひ。人にな。候へば。五條の東の洞院に。けい註ぐ
 わん申す上。ちみこ。ちみこ。待る。申しければ。おもひ聞き給ひて。それい

はちりひき女房。十人はかりいだし。盃をひひ。王申す。さうり。ま。さ。り。入。宇都宮
 どの。御上洛と風聞候が。い。か。な。た。じ。わ。け。れ。ば。その御。ま。な。て。候。わ。れ。ら。も。關。東。に
 て。ま。ぬ。り。あ。ひ。た。る。人。に。て。候。ま。す。ま。な。め。て。お。し。れ。給。ふ。ご。上。洛。は。一。ち。ち。り。に。て。候。ま
 ず。其。時。わ。が。み。出。で。あ。ひ。て。あ。い。く。御。上。洛。の。ま。な。て。給。は。り。候。も。御。ま。な。も。中
 じ。つ。け。候。ま。す。ま。な。へ。御。い。り。候。ま。す。ま。な。り。い。れ。ま。る。ら。せ。ん。ま。す。その。ま。な。く。を。御
 具。持。の。外。座。敷。あ。ご。の。御。ま。な。り。ま。な。大。ぐ。ん。に。て。候。は。入。ま。す。ま。な。り。若。黨。道
 具。持。の。外。家。來。の。者。ま。な。も。み。あ。く。入。れ。申。す。所。あ。ご。の。ま。な。り。御。ま。な。も。御。な。て。候
 へ。ま。其。上。あ。ご。の。飾。も。の。あ。い。く。御。ま。な。へ。ま。さ。候。や。御。馳。走。の。ま。な。り。を。い
 か。に。も。結。構。め。た。れ。つ。御。あ。ご。の。ま。め。の。人。々。は。た。れ。く。に。て。も。候。ら。ん。其。時。亭。主。申
 す。ま。な。り。い。か。も。な。に。も。あ。み。た。の。み。申。す。り。へ。は。女。房。を。ま。な。れ。く。の。ま。な。り。物。ま。な。り。い
 れ。ら。も。御。み。た。て。候。ひ。て。給。は。り。候。ま。す。ま。な。り。三十。人。は。かり。出。で。た。ま。せ。て。あ。み。み。こ。み。は
 候。へ。あ。み。み。れ。を。見。て。い。し。れ。ま。し。し。へ。く。候。ま。す。其。内。を。十。人。え。り。出。だ。し。申

す所に。門のぼろりなれば。廿二三はかりあるをのり。しぎの馬に。あ。ご。の。時。繪
 の。く。ら。か。か。せ。ま。な。の。ま。な。中。に。あ。ご。の。ま。な。り。い。か。も。な。に。あ。み。み。な。い。だ。し。大。を。追。ひ。し。め。り
 ま。な。ひ。ま。の。入。す。所。を。あ。み。み。ま。な。て。申。す。ま。な。り。宇。都。宮。の。ま。な。り。見。申。し。て。候。ま。す。ま。な。り。は
 し。り。出。で。み。れ。ば。件。の。宇。都。宮。あ。り。ひ。れ。ば。あ。み。み。い。か。に。あ。ご。の。宇。都。宮。の。ま。な。り
 申。し。て。候。亭。主。の。ま。な。り。も。候。は。入。り。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。に。あ。ご。の。ま。な。り。い。し。め。れ
 ば。あ。ご。の。ま。な。り。宇。都。宮。馬。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。へ。内。々。は。あ。ご。の。ま。な。り。い。し
 め。り。あ。ご。の。ま。な。り。候。へ。し。れ。ま。す。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。出。仕。あ。ご。の。容。格。な。も。談。合
 申。す。ま。な。り。存。一。候。へ。ば。い。か。も。な。に。あ。ご。の。ま。な。り。出。し。て。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。一。兩。日。以。前。に。出
 仕。申。し。て。候。無。沙。汰。の。い。た。り。御。も。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。御。宿。所。へ。ま。な。り。て。申。す。ま
 な。り。馬。ひ。ま。の。ま。な。り。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。處。に。警。火。薄。雪。は。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ
 十。人。は。かり。い。だ。し。出。で。ま。す。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ
 十。人。は。かり。い。だ。し。出。で。ま。す。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ。ご。の。ま。な。り。あ。み。み。の。ま。な。り。あ



かしこひの御歌あり。かの句は。此うたの心をまねびける。そのうち源氏春日大
 明神へ御参詣のまじふ。かゝるかゝりの池を御せしむる。こゝにこの采女が。
 身をまじふ。事をまじふ。こゝに出づ。たゞの御参詣は。御参詣の時。まじ
 入。こゝに
 かゝるかゝりの御歌あり。かの句は。此うたの心をまねびける。そのうち源氏春日大
 明神へ御参詣のまじふ。かゝるかゝりの池を御せしむる。こゝにこの采女が。
 身をまじふ。事をまじふ。こゝに出づ。たゞの御参詣は。御参詣の時。まじ
 入。こゝに

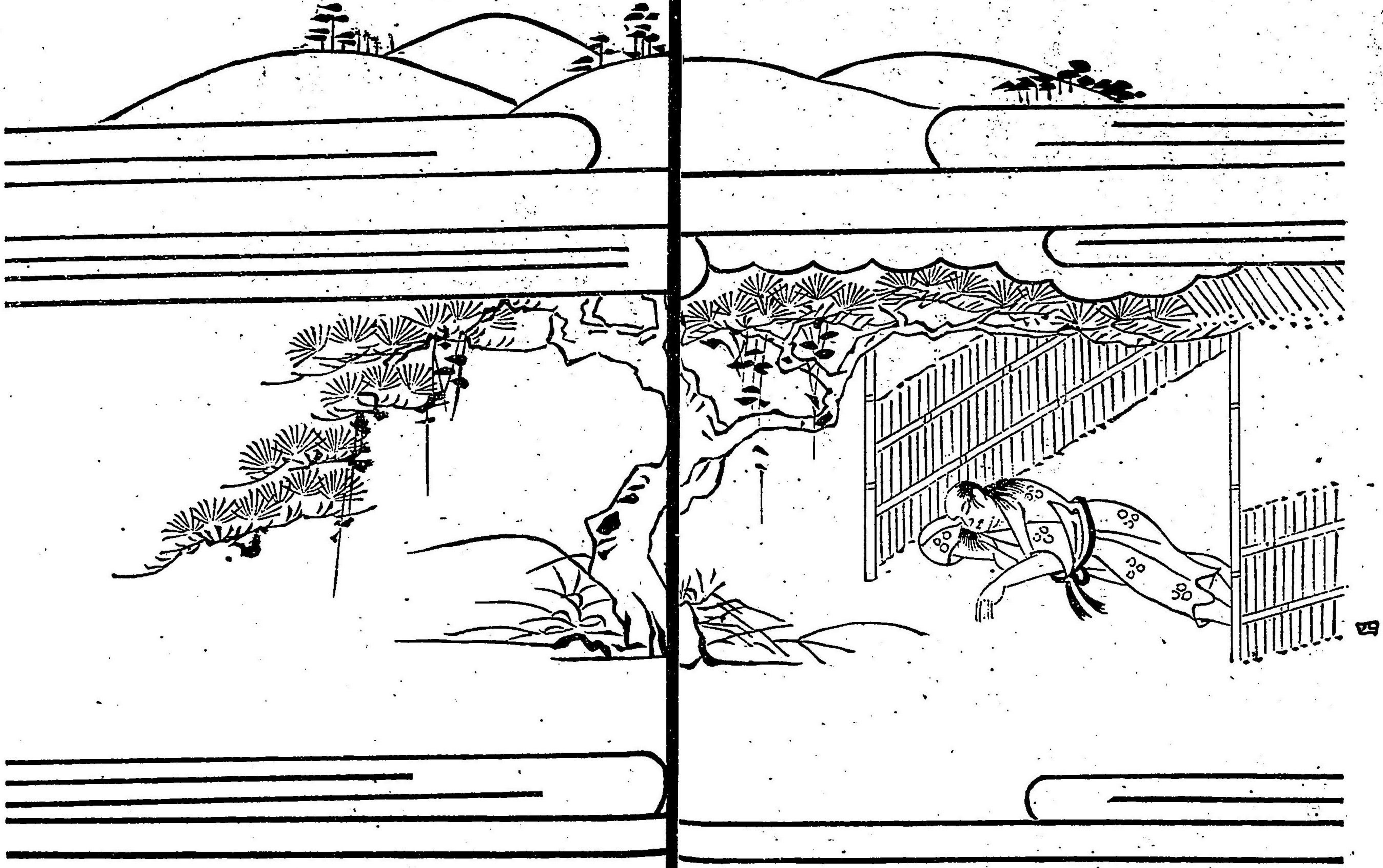
りかゝるかゝりの御歌あり。かの句は。此うたの心をまねびける。そのうち源氏春日大
 明神へ御参詣のまじふ。かゝるかゝりの池を御せしむる。こゝにこの采女が。
 身をまじふ。事をまじふ。こゝに出づ。たゞの御参詣は。御参詣の時。まじ
 入。こゝに

St. Lawrence University

物草太郎

東山道陸奥 ぶらうせんたうみちのくの末。信濃の國十郡のその内に。つるまの郡あたらしの郷を

いふ所に。ふしぎの男一人侍りけり。其名を物くも太郎ひぢむすと申し候。名を物くも太郎と申す事は。國にふらびふきほごの物くもとあり。ただし名こそ物くも太郎と申せども。家づくりのありさま。人にすゝめてたくを侍りける。四面四てうに築地をつき。三方門を立て。東西南北に池を掘り。島をつき松をうる。まきよりろくちへそりはしをわけ。高欄にまぼしをみびき。まぼしに結構世にいらたり。十二間の遠侍。九間のわたり廊下。つり殿。ぼそ殿。梅壺。桐壺。まがさが壺にいたるまで百種の花をうる。しめて十二間につくり。ひはたきこひを。錦をもつて天井をはり。桁うつばりなる木のくみ入には。まらびなむねをむる物にうちやうらへのみすをわけ。馬やまらひ所にいたるまで。もこへつくりして居はやち。



物くさ太郎是をみて。あはれおかしきか。あはれおかしき行
 へば。手のひらにたすかんと思ひて。大手をひらかば。いふ事。いふ事。あ
 ぢきあはれの内。あはれなるいふ事をい入れて。顔にむきあはれ。いふ事
 女房をいひて。腰に抱きしめて見あげければ。東西へは。更に御返り。あはれ
 ね。あはれの入是をみて。あはれなるいふ事。いふ事。いふ事。いふ事。いふ事。
 ありし者。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 候。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 彼羅六角堂。嵯峨法り。いふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 寺五條の天神。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 ひて候。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 者。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 あれ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。

あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 ければ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 は。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 り。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 ー。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 だ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 だ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 れ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 ぬ。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 る。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 る。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 る。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 る。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。
 る。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。あはれなるいふ事。

れを業せぬ折ぶ。こころいばりてはちるおもひて。男のもちたる唐竹の。杖にほぎんとか
くおん

から竹をつるにうきたる物おれば。こころひびたま人をみるおん

物くも太郎これを聞きあはくもなこも。わて。わねるわーつろくえをれし思ひ。御
返ら

あひの世のたぢのあひつろくくふの。あひつろくふよはたはつろくふんか

あひつろくこも。此男は。吾んわえんる。又すがたには似ず。あひる道なまりたる
ろ。あひつろくあひつろく思ひあひつろく

はあつろくこも。あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

物くも太郎是を聞き。わて手許を許せつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく
あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

物くも太郎此御、あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

送もうち捨て。裏おこをせんみあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

りて。いげられけり。物くも太郎あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

ひて。唐竹の杖くきみ。わてにおつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

女房は是を最後におぼしめて。案内は知り給ひたり。あふたの山路。あふたの

辻。あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

と太郎是を見て。わておはつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

辻へあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

きをみれども人もあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

あひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろくあひつろく

みかどは是をきこしめし。御感に入りて。汝が先祖を申せと宣言あり。先祖もふき者にて候と申しけり。おらは信濃の國の目代へ尋ねよとて。其所の地頭へ宣言をふし。御たづねありければ。いそにまいたる文書をとり寄せて。見参に入れ奉り。これを開き御覽すれば。仁王五十三代のみかど。仁明天皇の第二の皇子深草の天皇の御子。二位の中將と申す人。信濃へ流されて。とし月を送り給ひしが。一人の御子もふし。是を悲しみ給ひて。善光寺の如來にまゐりて。一人の御子を申しつけ給ひて。御とし三歳にて。二人のおやにおくれ給ひて。其後凡夫のちりにまじはり給ひて。かゝる賤しき身とふり給へり。みかど御覽ましめて。王子をはふれて。ほろちのまき入にておはしけるよしとて。信濃の中將にあして。甲斐信濃兩國を給ひければ。此女房相具して。信濃へくだり。あまひの郷につき給ふ。あたらしの郷の地頭左衛門をば。忠ふかき人ふればとて。甲斐信濃の兩國の總政所にきたあたまふ。又三年養ひたる百姓にも。みまゝ所領をこらせて。わが身はづるまの郷に御

きこしめし。御感に入りて。汝が先祖を申せと宣言あり。先祖もふき者にて候と申しけり。おらは信濃の國の目代へ尋ねよとて。其所の地頭へ宣言をふし。御たづねありければ。いそにまいたる文書をとり寄せて。見参に入れ奉り。これを開き御覽すれば。仁王五十三代のみかど。仁明天皇の第二の皇子深草の天皇の御子。二位の中將と申す人。信濃へ流されて。とし月を送り給ひしが。一人の御子もふし。是を悲しみ給ひて。善光寺の如來にまゐりて。一人の御子を申しつけ給ひて。御とし三歳にて。二人のおやにおくれ給ひて。其後凡夫のちりにまじはり給ひて。かゝる賤しき身とふり給へり。みかど御覽ましめて。王子をはふれて。ほろちのまき入にておはしけるよしとて。信濃の中將にあして。甲斐信濃兩國を給ひければ。此女房相具して。信濃へくだり。あまひの郷につき給ふ。あたらしの郷の地頭左衛門をば。忠ふかき人ふればとて。甲斐信濃の兩國の總政所にきたあたまふ。又三年養ひたる百姓にも。みまゝ所領をこらせて。わが身はづるまの郷に御

所建て。眷族をおさ。貴賤上下にかしづかれ。國のまつりごとおたぢかにありしか
は。佛神三寶の加護ありて。百廿年の春秋をおくり。御子あまた出でてきて。七珍萬
寶に飽き充ちて。長生の神とふり給ふ。殿はただかの大明神。女房はあまひの権現
とあらはれたまふ。是は文徳天皇の御時ありき。かれはおもくせんむすぶの神とあ
らはれ。男女をさらはず。戀せし人は。みづからが前に參らばかみ入る。誓ひふかく
おはしますあり。およそ。凡夫は本地を申せばはらなたて。神はほんちをあらはせば。
三熱の苦みをかまして。真に喜びたまふあり。人のいろいろおくの如く。物くさ
くとも身はすぐふるものあり。毎日一ど此まじしを讀みて。人に聞かせし人は。
財寶にあまひあり。おははしいまにまかすこの御誓あり。めでたきを事あり
申すもおろしかり

088964-001-7

913.49-01

御伽草子

今泉 定介

畠山 健 / 校

M24

DBL-0069

